

# 多文化共生の課題と可能性を教育で拓く！



多文化共生  
フィールドワーク

受講者募集中  
6/7(月)  
申込書必着

## JICA 中部 2021 年度 教師国内研修 (多文化共生)



こんな方にオススメ！

- 国籍や文化の多様さから成長につなげる現場を見て学び教育に生かしたい方
- 異文化理解や多文化共生のための教育プログラムの作り方を学びたい方
- 多文化共生や国際理解教育について学び合う仲間やネットワークが欲しい方

じっくり学ぶ年間研修：7/3(土)～2/27(日)に6回12日間  
(予定)  
(受講費無料、交通費支給)

主催 独立行政法人国際協力機構中部センター (JICA 中部)



後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、静岡県教育委員会、  
(申請中) 名古屋市教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会

# 研修の概要

## (1) 研修目的

開発教育・国際理解教育に取り組む教師が、国内の多文化共生の現場をフィールドワークすることにより、外国人市民の現状や課題、多文化共生に向けた可能性を探り、そこから得た気づきや素材を教材にして学校現場での授業実践を行い、次代を担う児童・生徒の教育に役立てて頂くことを目的として実施いたします。また、研修終了後も、開発教育・国際理解教育の中核的指導者として活躍いただくことを期待しています。

## (2) 研修日程および内容 (諸事情により、変更になる場合があります。予めご了承ください。)

回	日時	内容(予定)
事前研修	7月3日(土) 13:00~17:00 7月4日(日) 10:00~15:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本研修の概要、訪問先の説明</li> <li>●多文化共生に関する基礎的知識の共有</li> <li>●研修目標の共有、情報収集・交流の準備、役割分担</li> </ul>
フィールドワーク	7月31日(土) ~8月1日(日) 8月21日(土) ~8月22日(日) 9月18日(土) ~9月19日(日) ※時間は9:00~翌日17:00の間で 訪問先での活動内容により今後設定 ※訪問先やJICA中部で宿泊の場合あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東海地方の多文化共生の現場体験</li> <li>●在住外国人との意見交換</li> <li>●海外(ブラジル)の日系人とのオンライン意見交換</li> <li>●多文化共生に関する現状と課題、取り組み、可能性に関するレクチャー</li> <li>●フィールドワークのふり返し、受講者同士の学び合い</li> </ul>
事後研修①	10月2日(土) 13:00~17:00 10月3日(日) 10:00~15:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現地研修の気づきや素材の教材化</li> <li>●上記教材を使った学習者主体の授業案の作成</li> </ul>
<b>10月~2月:各自、学校の授業などで実践!</b> 11月13日(土)、1月22日(土) 13:00~17:00 (自由参加・有志) フィールドワーク報告の準備、フォーラムでのワークショップ提供検討、実践の相談、		
事後研修②	2月26日(土) 10:00~18:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実践の内容、成果と課題の共有</li> <li>●フォーラムでの報告の準備</li> </ul>
実践報告フォーラム	2月27日(日) 10:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実践の報告(ポスターセッション)</li> <li>●有志チームによる開発教育体験ワークショップ</li> <li>●フィールドワーク報告</li> <li>●実践者つながりワークショップ</li> </ul>

※ 事後研修②と実践報告フォーラムは、開発教育指導者研修(実践編)受講者と共同で行います。

## (3) 研修場所(フィールドワーク先を除く)

JICA 中部 なごや地球ひろば2階セミナールーム

<http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/information/access.html>

## (4) 研修企画・運営

(特活) NIED・国際理解教育センター

<http://nied.love-hug.net/>



## (5) 多文化共生フィールドワークの訪問先や内容（調整中※）

地域	訪問先	内容（予定）
愛知県 刈谷市	ワールド・スマイル・ガーデン 在住フィリピン人・ベトナム人 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国籍・性別・年齢に関係なく、多様な人々が集まって野菜や花を育てたり、料理や文化を紹介し合ったり、みんなで楽しむコミュニティガーデンの視察</li> <li>●在住外国人同士が集い・助け合うための組織された外国人コミュニティメンバーと小グループに分かれて、質疑応答や意見交換</li> </ul>
三重県 白山町	ゲストハウス イロンゴ を中心とした白山地域の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の農村資源とフィリピンの文化の融合により、地域の持続可能な発展を目指し、多文化共生をテーマに、田舎で国際交流ができる場所づくりをしている活動視察や体験</li> </ul>
静岡県 浜松市	（公財）浜松国際交流協会 多文化共生センター ブラジル人コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●静岡県内でニューカマーと呼ばれる南米日系人を中心とする外国人市民が多数居住する浜松市において外国人市民に関わる事業や外国人コミュニティによる活動状況の視察</li> </ul>
ブラジル	日系人社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブラジルの日系人居住地のメンバーとオンラインで結び、ブラジルでの多文化共生への想いや取り組みについて質疑応答・意見交換</li> </ul>

※ 今後の調整により、訪問先・内容が、変更・追加となる場合があります。

## (6) 講師・ファシリテーター（予定）

区分	氏名・主な所属	プロフィール
講師	神田 すみれ 愛知県立大学多文化共生研究 所 客員共同研究員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛知労働局外国人雇用管理アドバイザー、東海外国人生活サポートセンター理事、名古屋国際センター外国人法律相談英語・中国語通訳者、愛知県弁護士会登録通訳人など、多文化ソーシャルワーカー兼コミュニティ通訳者として、愛知県を拠点に海外にルーツを持つ方々を支援している。</li> </ul>
	後藤 美樹 外国人ヘルプライン東海代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>●厚生労働省の「よりそいホットライン事業」で活動した仲間の有志で始めた相談会をきっかけに、外国人ヘルプライン東海を設立。外国人相談、通訳の派遣、書類翻訳の他、外国人の困りごとに関する研修、支援の重要性や具体的な支援方法を行政に伝える啓発活動も行っている。</li> </ul>
ファシリテーター	伊沢 令子 NIED・国際理解教育センター 代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ERIC 国際理解教育センターの研修後、1998年に名古屋でNIED・国際理解教育センターを設立。自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGOなどの依頼により、年間100回以上の参加型ワークショップを実施している。刈谷市の多文化共生のまちづくりにも関わっている。</li> </ul>

※ 講師には、事前研修またはフィールドワークの合間に、レクチャーをしていただく予定です。

# 研修の流れ



## 7月 事前研修

チームメンバー同士知り合い、訪問先で十分に学び、その結果を教材につなげるための準備を、参加型学習で行います。



## 7～9月 多文化共生フィールドワーク

東海地方の多文化共生の現場を訪れ、様々な活動を見聞き、体験し、開発教育・国際理解教育に関する気づきや素材を集めます。



## 10月 事後研修 ①

現地で得た気づきや素材をもとに教材を作り、授業案を仲間と考え、研修成果を十分に活かせる授業実践の準備を行います。



## 10～2月 授業実践

多文化共生のために、児童・生徒が、何を知り、どう行動するようになるとよいか、フィールドワークでの経験と国内での研修の成果をいかに発揮します。



## 2月 事後研修 ② + 実践報告フォーラム

「研修で何を学び、どう授業に生かしたか」を他の研修受講者や一般の方に伝え、次へのつながりを作ります。

# 募集要項

## (1) 応募資格および条件

- ① 応募および研修受講時点で愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の国公立、私立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校の教員、教育委員会の所属する教員（児童・生徒に開発教育・国際理解教育を継続的に実践できる立場にある教員）で、所属長（校長等）の同意があること
- ② 本研修の趣旨・目的を十分理解し、原則研修の全日程に参加可能であること
- ③ 2021 年度中に授業やクラブ活動で、研修の経験を活かした開発教育・国際理解教育を実践できること
- ④ 本研修の実施および以後 JICA が実施する開発教育支援事業に協力可能であること
- ⑤ 帰国後、所属長の承認を得たうえで、次のことに同意すること
  - ・フィールドワークに関する報告書を 9 月 30 日（木）迄に提出すること
  - ・所属校における授業実践内容についての実践報告書を 1 月 31 日（月）迄に提出すること
  - ・2 月 27 日（日）開催予定の開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムで実践内容を発表すること
  - ・これら提出物を報告書冊子や JICA ウェブサイトなどで学校名、氏名とともに一般公開されること
- ⑥ E メールでの連絡が可能なこと、参加者メーリングリストなどでの情報共有に賛同いただけること

## (2) 募集人数 10 名程度

## (3) 応募方法・応募締切・選考結果通知

- ① 必要事項をすべて記入した所定の申込書と、別途設問①～③の回答を A 4 版 1 ページ以内にまとめた文書を、事務局（NIED・国際理解教育センター）に、E メール、FAX、郵送で提出してください。
- ② 応募締切は、6 月 7 日（月） 必着です。E メールにて応募書類を受付した旨通知します。
- ③ 書類審査を行い、6 月 17 日（木） までに選考結果を E メールにて通知いたします。
- ④ 応募受付や選考結果の通知がない場合は事務局へお問合せください。

## (4) 参加費用 参加費無料のほか、次のとおり本研修にかかる経費を JICA が負担します。

- ① 研修にかかる交通費
- ② 研修にかかる宿泊費（JICA 規定に基づく対象者のみ、日当は除く）
- ③ フィールドワークにかかる保険加入費

## (5) その他注意事項

- ① 年休・研修（職専免）など研修中の扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本研修では、JICA における労災保険等の適用はありません。所属先の業務出張扱いで参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の公務上災害に対する補償措置を行ってください。
- ③ JICA は出張命令依頼書等の発出は行いません。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、研修の期間を変更したり、中止となることがあります。予めご了承ください。
- ⑤ 過年度の『開発教育指導者研修（実践編）』受講者および 2021 年度「実践編」応募者を優先し、選考します。  
「実践編」を併せて受講することで、学習者主体の授業実践力が高まり、本研修の経験をより活かすことができます。「実践編」の内容は以下サイトでご確認ください。申込書当該欄に「希望する」をチェックすれば申し込みとなります。 ※「実践編」…<https://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatsu/shidousha/>
- ⑥ 申込書に虚偽の記載内容が含まれている場合は、選考後でも参加資格が取り消しになることがあります。

## 応募・問合せ先 申込書は必ず事務局（下記住所）へお送りください。

申込書は JICA ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/> からダウンロード可。

### [教師国内研修(多文化共生)事務局]

★特定非営利活動法人 <sup>ニード</sup>NIED・国際理解教育センター JICA 研修係（担当：川合）  
〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町二丁目 3 番地 YWCA ビル 7 階  
E-mail : [nied@love-hug.net](mailto:nied@love-hug.net)（問い合わせは E メールでお願いします）  
TEL : 070-5333-5566 FAX : 052-766-6440